

学校での多様な学びの 機会の確保について

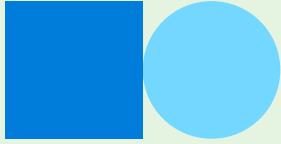
令和7年8月13日



星のあまん

おりひめちゃん

交野市議会総務文教常任委員会
重点テーマ所管事務調査報告



期間： 令和6年10月 ~ 令和7年7月

調査メンバー：

委員長

なかたに まさと

中谷 政人



副委員長

あべ けいこ

安部 敬子



委員

くろだ みのる

黒田 実



おかだ ともまさ
岡田 伴昌



ほり てんち
堀 天地



まつなが りゅうた
松永 隆太



ふじた まり
藤田 茉里



やました ちほ
山下 千穂



テーマ選定の背景

『学校での多様な学びの機会の確保について』



01

学校現場では支援教育への理解は高いが市全体での理解が浸透すればより良いのでは？

先進市の事例を勉強したい。

テーマへの思い
テーマ選定の理由



02

多様な学びの機会について、支援が必要な子どもたちにどう支援していくのか。

03

不登校の子どもたちを取り巻く環境と多様な教育機会の確保について、児童支援や生徒支援ルームなど現状は整っているのか。

04

一見、障がいが無いように見える子どもでも支援が必要な子どもが増えている。そのような子どもたちへも支援が必要なことへの理解を広めたい。

『支援』について

交野市の
支援についてどのような
仕組みになっているのか？

◆◆◆◆◆ 支援を要する児童の小学校等への就学について ◆◆◆◆◆ 交野市教育委員会

◆認定こども園

◆幼稚園・保育所等

◆各支援学校幼稚部



就学先としては、
◆市立小学校 ◆府立支援学校（小学部） ◆私立小学校 があります

私立
小学校

市立小学校

通常の学級

障がいの有無に関わらず、すべての子どもたちに
「ともに学び、ともに育つ」教育を実施

通級による 指導

- ◆発達障がい学級
- ◆設置校

郡津小学校・岩船小学校・倉治小学校
旭小学校・藤が尾小学校・私市小学校
交野みらい小学校

※通常の学級に在籍する児童が対象

※設置がない学校には、設置校より通級担当者が
巡回し、通級による指導を行います

支援学級

- | | |
|----------|--------------|
| ◆知的障がい学級 | ◆自閉症・情緒障がい学級 |
| ◆肢体不自由学級 | ◆弱視学級 |
| ◆難聴学級 | ◆病弱・身体虚弱学級 |

※児童の障がいの状況に応じて設置



府立支援学校

交野市にお住いの方が通学できる支援学校

- ◆枚方支援学校（知的障がい）
知的障がいのある児童・生徒のための学校
- ◆交野支援学校（肢体不自由）
身体障がいのある児童・生徒のための学校
- ◆生野聴覚支援学校（聴覚障がい）
聴覚障がいのある幼児・児童・生徒のための学校
- ◆大阪北視覚支援学校（視覚障がい）
視覚障がいのある幼児・児童・生徒のための学校
- ◆刀根山支援学校（病弱）
- ◆羽曳野支援学校（病弱）
病弱の児童・生徒のための学校

教育委員会
から



※主な障がいの状況により、支援学級または支援学校の種別を決定します

R6支援学級数

(学級)

学級種別	小学校	中学校
知的障がい	16	7
肢体不自由	1	1
病弱	2	0
自閉症 ・情緒障がい	23	9

R6通級指導教室 設置学級数

(学級)

学級種別	小学校	中学校
発達障がい	8	2

R6医療的ケア児の人数

(人)

小学校
2

- 看護師配置
- ・会計年度任用職員
 - ・R6: 2名配置
 - ・医ケア内容
喀痰吸引
胃ろう

学習支援員(通訳)派遣 児童・生徒数

(人)

年度	小学校	中学校
R5	14	0
R6	13	2

○支援教育支援員配置

- ・有償ボランティア
- ・1時間1,065円の報償費(R6)
- ・R5支援教育支援員
延べ人数
小学校: 9校・20名
中学校: 2校・2名

○スクールヘルパー配置

- ・会計年度任用職員
- ・R6人数
小学校: 27名
中学校: 3名

児童・生徒支援ルーム グレープ入室児童・生徒数 (人)

年度	小学校	中学校
R5	2	15
R6	3	7



家庭教育支援員派遣 児童・生徒数

不登校対策支援員派遣 児童・生徒数

年度	小学校
R5	6
R6	6

年度	中学校
R5	13
R6	33

④学習支援員派遣 (通訳)

- ・英語
- ・中国語
- ・スペイン語
- ・ベトナム語
- ・有償ボランティア
- ・1時間2,000円の報償費
- ・R5学習支援員
延べ人数
小学校
: 4校・9名

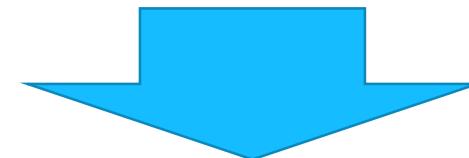
○生徒指導支援員配置

- 有償ボランティア
- ・1時間1,065円の報償費(R6)
 - ・R5生徒指導支援員
延べ人数
小学校: 3校・4名
中学校: 1校・1名

教育委員会 から



『支援』といっても
様々な支援があること



『支援』に対する
さらなる理解が必要

- ・「支援を要する児童・生徒」は、身体的、精神的な支援が主ではあるが、外国にルーツを持つ児童生徒や親の支援もあること
- ・インクルーシブ教育への理解も必要であること
- ・支援学級、通級による指導、学習支援などは、国、府、市の予算が異なり、明確な理解が必要であること
- ・教員・支援員のみならず、保護者や児童生徒も理解をもてる体制づくりが必要であること
- ・現場の声、支援員の声、意見を聞く必要があること

先進市視察に向けて

- ・支援教育について
- ・インクルーシブ教育について



東京都 調布市



東京都調布市

基本方針

すべての学校で子どものために
一丸となって教育活動を進めます

すべての教員がどの子にもわかる
教え方を身につけて、子どもが学
ぶ力を引き出します

多くの人が関わってすべての
子どもたちのために協力します

どの子も安全で安心して学ぶこと
のできる学校にします

子ども一人一人を大切にする教育
子どもの数は命の数

理念





東京都調布市

就学支援委員会の委員に
2名の精神科医師を入れている

校内通級教室にて知的な遅れはないが特定の“学びにくさ”で困っている子をフォロー

ユニバーサルデザイン化を進め、
視覚的な掲示物など
国語以外の教科で漢字間違いは、
フリガナがあれば減点しないなど

特徴的な取組



不登校支援で相談先・支援機関が 一目で分かるリーフレットを作成

神奈川県 海老名市



神奈川県海老名市

教育施策の5つの柱

新たな学校の枠組みづくりの推進

包摂性の高い教育的・社会的支援の推進

こどもと大人がともに学ぶ機会の充実

『えびなっこしあわせプラン』の推進

新たな学校施設への取組と子育て環境の充実

『ひびきあう教育』
『誰ひとり取り残さない教育』

理念





神奈川県海老名市

特徴的な取組

『対話』を通じたフルインク
ルーシブ教育の推進

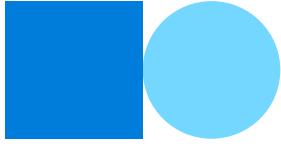
インクルージョン（包摶）の考え方
子どもたちの状況に合わせて構造
をリ・デザインする

ゴールは見えているが
誰も経験したことのない教育への挑戦
手段・スキルに正解はまだわからない挑戦

教室以外で安心して過ごせる居場所
として『スペシャルサポートルーム』等
を市内小中学校全てで設置



フルインク
ルーシブ教育





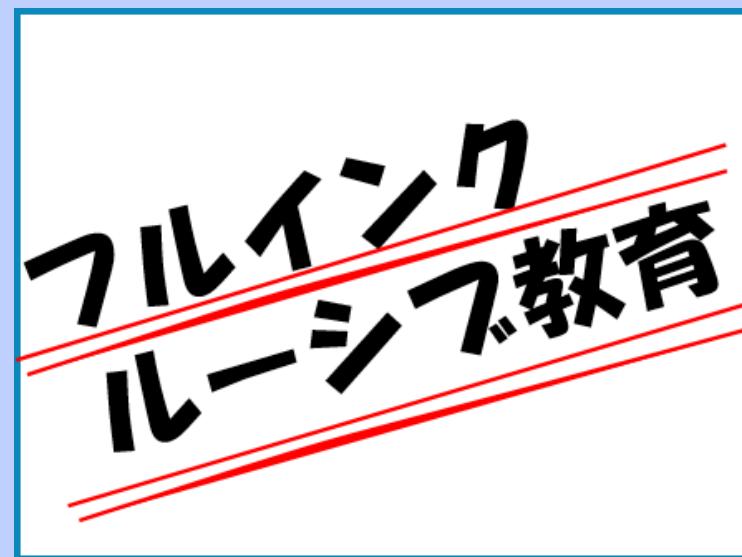
神奈川県海老名市

子どもたちの授業風景

調布市における不登校の相談先・支援機関

- ①教育委員会**
市民では、豊かなリソースを持つ教育・生涯のための、教育委員会で相談を行っています。
窓口は、教育委員会の窓口等が担当します。対応が難しい場合は、各学校へ相談ください。
問い合わせ窓口
②学校・施設等
- ③スクールカウンセラー(SCC)**
調布市立小中学校の教諭、教員、調布市立幼稚園、学校や教員に対して相談を行います。相談内容に応じて、問題解決に努めます。
対象年齢: 小学校1年生～中学校3年生
問い合わせ窓口
④教育相談所
実施七曜(ひしあい)、休園(ひけい)などのため、学校が行なう特別な休校日等、子どもたちの心に問題が生じて、心配な場合は、教育相談所へお問い合わせください。
対象年齢: 3歳～10歳
問い合わせ窓口
⑤スクールソーシャルワーカー(SSW)
福祉の専門家が家庭や学校、施設や問題児童青少年の問題等について相談を行います。相談内容に応じて、心配な場合は、教育相談所へお問い合わせください。
対象年齢: 小学校1年生～中学校3年生
問い合わせ窓口
⑥居間型支援「みらい」
教育委員会カウンセラー、心理カウンセラー、スクールソーシャルワーカーが、不登校の相談・生涯の自己実現支援などを担当する窓口です。お問い合わせください。
対象年齢: 小学校1年生～中学校3年生
問い合わせ窓口
⑦道府県教育庁「大學生の子」
【全国道府県教育委員会連絡会】
不登校の子の親が集まるからこそ生まれるこの子の成長や心の変動を知りたい場合は、個別相談や会員登録をして、道府県教育庁「大學生の子」の会員登録をしてください。会員登録料は、会員登録料を支払うことで、会員登録料は手元に貯めることができます。
対象年齢: 小学校1年生～中学生
問い合わせ窓口
⑧不登校特例分校教室「はしうじ教室」
【調布市立東中学校に転校している】
不登校の子が社会的立場に立たず、学びの意欲が持続せず、また、家庭環境等で心の問題が生じて、心配な場合は、教育相談所へお問い合わせください。特別な教科や授業や各種方法を組み、「おもてなし」などの相談を行っています。
対象年齢: 小学校1年生～3年生
問い合わせ窓口
- ⑨テラコヤ・スイッカ**
毎週月曜日午後4時から6時まで、子どもたちと一緒にテラコヤ・スイッカの農園で「種まき」活動をして、「アーモンドの木」や「アーモンドの木」の木の実を収穫する「リーフーム(収穫みらい)」活動をしてています。活動内容は手元に貯めることができます。
対象年齢: 小学校1年生～中学校3年生
問い合わせ窓口
⑩ホームページ
不登校相談・窓口への相談
<http://www.city.hiratsuka.lg.jp/syogen/syogen.html>

不登校支援リーフレット



スペシャルサポートルーム等



ピックアップ
ポイント



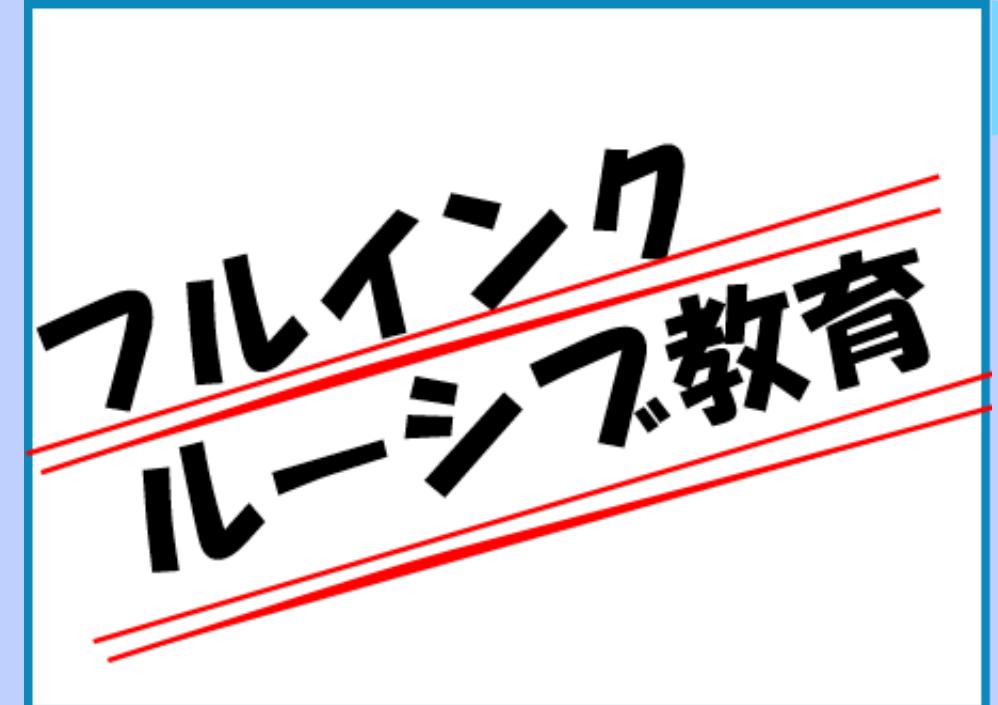
東京都調布市



神奈川県海老名市

子どもたちの授業風景

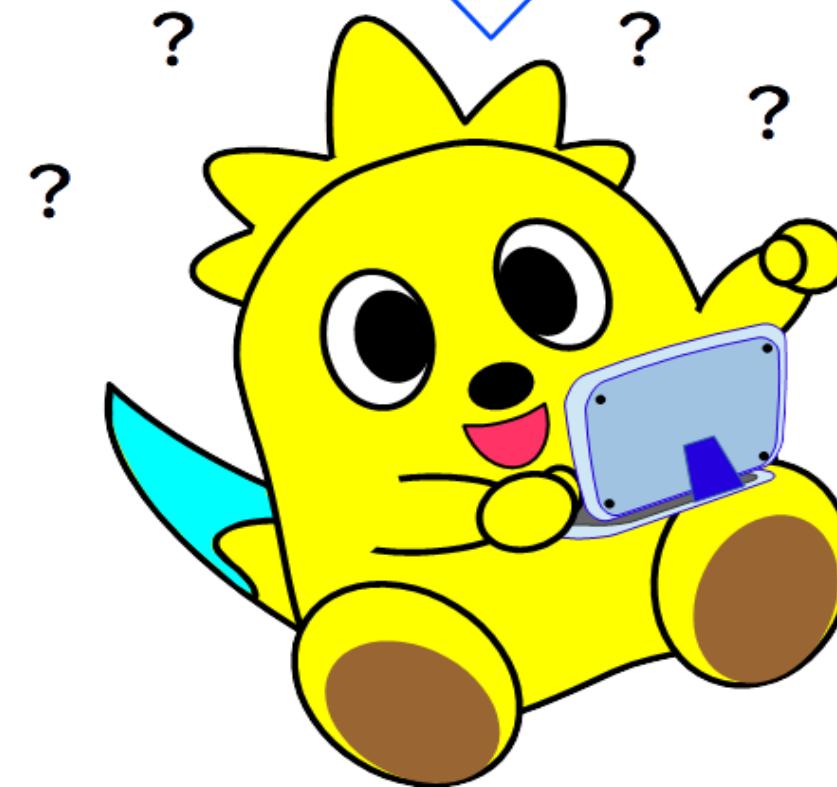
- ・学習目標を授業で決め、課題を設定し、あとは、自分で好きに学習を進める
- ・好きな場所で授業を聞き、例えば棚にお尻を入れて聞くことで集中できるなど
- ・脳を回転させることをメインに



スペシャルサポートルーム等

- ・市内小中学校全てに設置している
- ・子どもたちが安心して過ごすことができる環境づくりを進めている
- ・丸机・ソファ・ハンモック・テントなどがあり、心を落ち着かせる環境

交野市の取組みは、
どうなっているんだガオ？



星のあまん



星のあまん

おりひめちゃん

交野市 教育委員会



大阪府交野市

支援教育の方針

基礎的環境整備

安心できる集団づくり

わかる授業づくり

合理的配慮

『落ち着いた教室環境』

授業のユニバーサルデザイン

『ともに学び、ともに育つ』教育

理念





大阪府交野市

『適切な学びの場』の検討を行い、
住んでいる地域の小学校へ就学でき
る体制

外国にルーツを持つ親や児童・生徒
の支援として、市費で有償ボランティ
アの通訳を学習支援員として配置

支援教育コーディネーターを
市内小中学校に最低1名以上
配置

特徴的な取組



不登校や登校しづらい児童・生徒の
ために校内教育支援ルームや別室等
で支援（府費で支援員を配置）

授業のユニバーサルデザインを
取り入れ、学級環境の整備



手作りのユニバーサル
デザイン教材

振り返り ポイント

- ・「支援を要する
が主ではある
あること

大阪府全体で昔からインクルーシブ教育を行っていた。
交野市でも継続的に「ともに学び、ともに育つ」教育
を行っていた。インクルーシブ教育は、理念的なもの
も実践的なものも

- ・インクルーシブ教育への理解も、

支援学級や通級による指導は、府費負
担の教員が対応。学習支援など各種支
援員を市費にてサポートしている

- ・支援学級、通級による指導、学習支援などは、国、府、市
の予算が異なり、明確な理解が必要であること

- ・教員・支援員のみならず、保護者
理解をもてる体制づくりが必要で

実際の現場はどうなっているのか？
支援の体制、教員・支援員の声や意見
を見聞きする必要があるのでは？

- ・現場の声、支援員の声、意見を聞く必要があること

交野市内の
小中学校へ

市内小中学校
視察ポイント



- ・ 校内教育支援ルームについて
- ・ 支援学級について
- ・ 現場の声、支援員の声について
- ・ 授業のユニバーサルデザインについて

交野市内小中学校視察箇所

交野みらい小学校

郡津小学校

岩船小学校

市内小中学校 視察



第三中学校

第四中学校

校内教育支援ルームについて



郡津小『かたるーむ』

- ・通常時施錠
- ・空き教室利用
- ・大人の常駐なし
- ・目隠し用カーテン・間仕切りを設置したい



- ・常時開放
- ・専用の支援ルーム
- ・府費にて支援員配置
(学習支援・サポート)
- ・支援員不在時、教員配置
- ・休むことから支援ルームを選ぶ子が増えた
- ・新しいパーテーションが欲しい



みらい小『ほっとルーム』

- ・常時開放
- ・専用の支援ルーム
- ・府費にて支援員配置
- ・支援員不在時、教員配置
- ・本来の教室で過ごせる

ための準備の部屋

三中『生徒支援ルーム』

課題

- ・市内すべての学校に校内教育支援ルームを設置できていない
- ・府費にて支援員を配置出来ている学校とそうでない学校との教育環境の差
- ・空き教室等に空調設備がない
- ・運用も各学校によりばらつきが

・支援学級について



岩船小



- ・パーテーションを利用し、個人のスペースを確保
- ・支援学級に在籍の子も通常の学級に席がある
- ・先生同士の情報共有を大切に
- ・スクールカウンセラー配置で専門的な見解や保護者の相談も
- ・支援教育コーディネーターの参加する連絡会を年3回実施



四中

- ・知的障がいの種別で4つの教室を使い分け
- ・進学に向けて、心を落ち着かせて学習する

ことがメイン

- ・通級による指導の希望者が増加
- ・通級による指導の設定ができていなかったため、三中から教員派遣

課題

- ・支援教育コーディネーターが通常クラスを兼務しているので負担が大きい
- ・コーディネーターの職員配置は各学校によりばらつきがある
- ・パーテーションや絨毯など設備の充実を
- ・子どもたちの情報を共有する時間が不足

・現場の声、支援員の声について

課題



岩船小

- ・空調設備のない教室等があり、夏場は、授業にも使えない
- ・校内教育支援ルームなどにも使用できない
- ・カーテンが設置できない教室もあり、更衣室としても使用できないため、防火用カーテンがあれば



四中



・授業のユニバーサルデザインについて



岩船小



みらい小

課題

- ・先生の工夫により作成されている為、作成時間がかかる
- ・ユニバーサルデザインの教材は手作りするしか選択肢がない

インクルーシブ教育

授業のユニバーサルデザイン



校内教育支援ルーム
(校内教育支援員がいない
場合は教員が対応)

教室に入りづらい
すべての児童・生徒が利用

【加配関係】
・校内教育支援員
・日本語指導担当教員
・スクールカウンセラー 等

通常
の学級

専門家の
助言を受け
ながら
通常の学級

専門的
スタッフを
配置して
通常の学級

通級に
よる指導
通常の
学級在籍

支援
学級

可能になり次第
(基本的には市費の各種支援員がサポート)

必要のある時のみ
(基本的には府費負担教員が対応)

交野市教育委員会

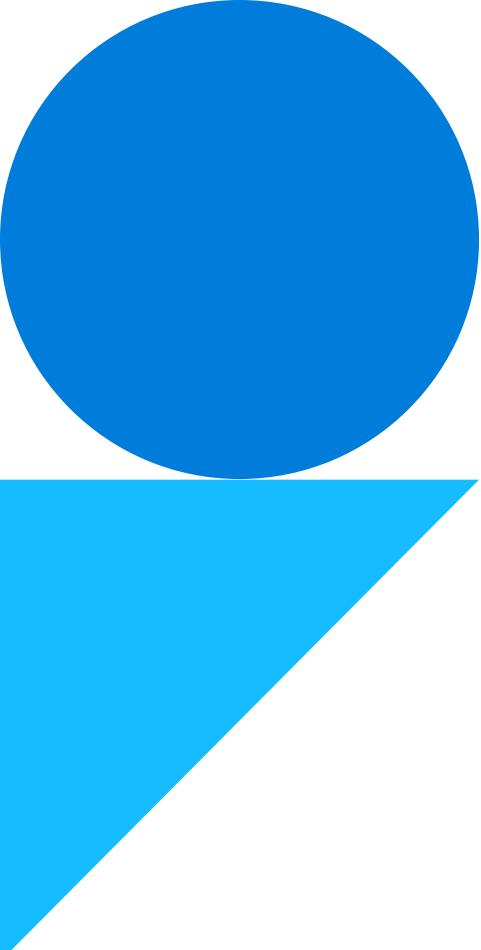


- ◆各種支援員（学習・不登校対策・支援教育・生徒指導・家庭教育）
- ◆スクールソーシャルワーカー、教育相談員
- ◆児童・生徒支援ルーム「グレープ」→不登校児童・生徒対象



提言に向けて

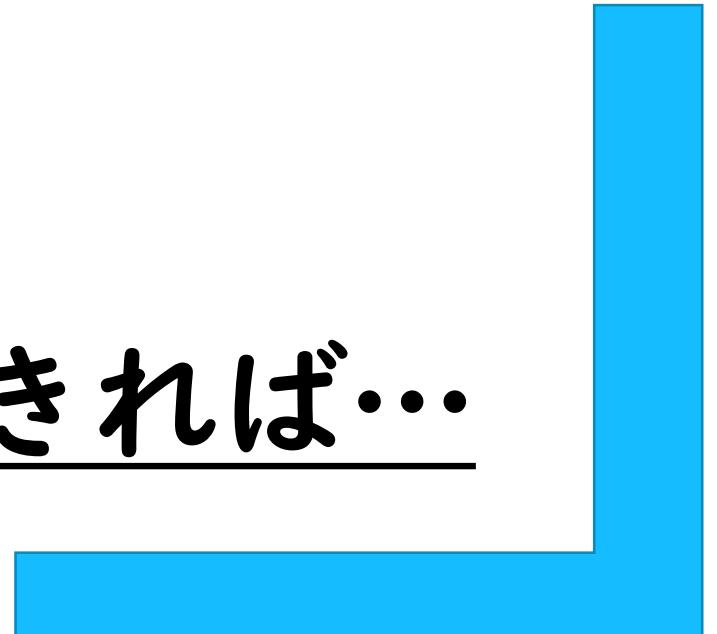
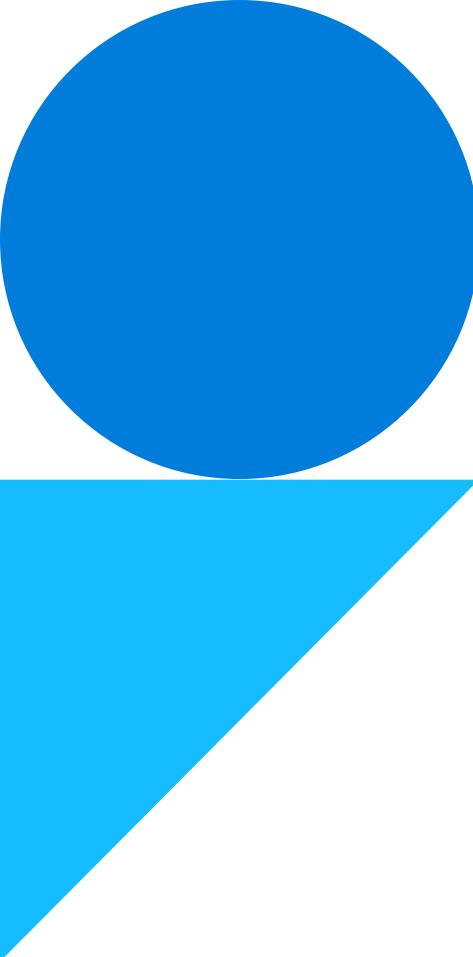
テーマである
「学校での多様な学びの機会」
をどう確保するのか？



現在の交野市内小中学校の現状
他市の先進的取組みを比較
見て來たものが



交野市の取組みは、
他市の先進的取組み事例と
比較しても劣ってはいない



更なる取組みにより、
現在の交野市の取組みが
より良いものになるように

提言できれば…

これまで培ったインクルーシブ教育を 次世代のインクルーシブ教育へ

学びの機会は多様化

子どもたちの

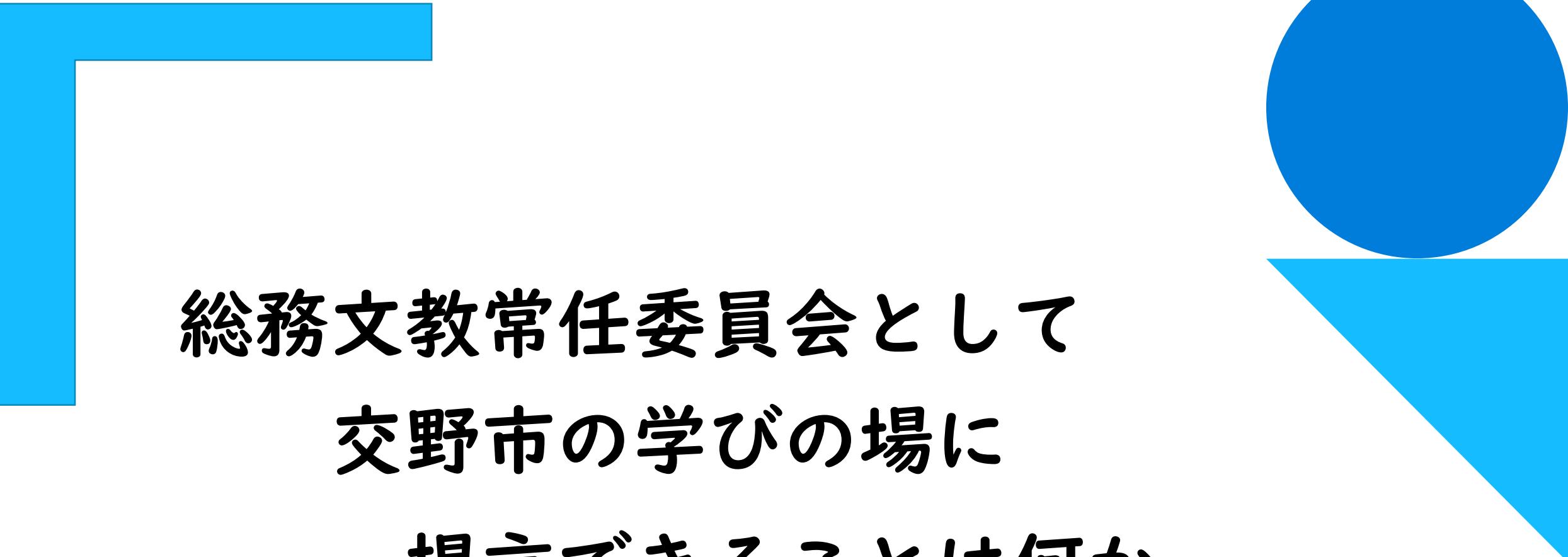
学びの機会は、
多様化し、自由に

多様な学び

10人いれば

10人の学び方があり
それらは個性である

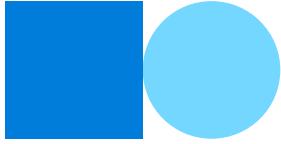




総務文教常任委員会として
交野市の学びの場に
提言できることは何か。

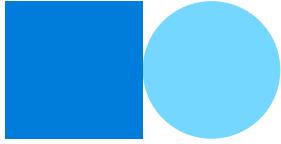


星のあまん



星のあまん

おりひめちゃん



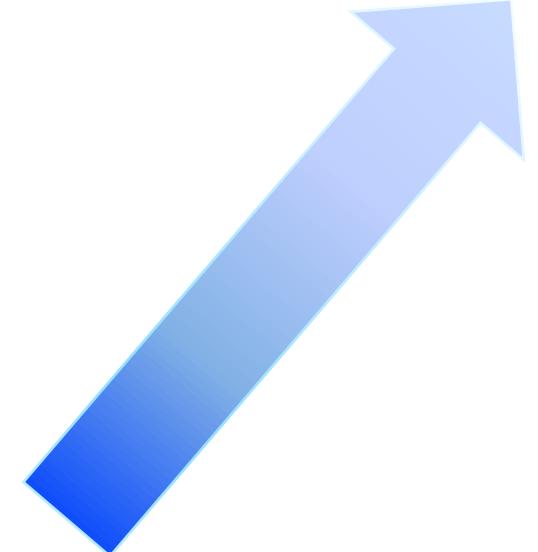
I. 支援員・人材の確保 その①

提言

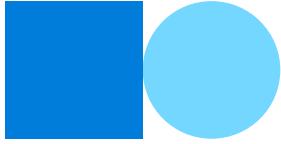
- ・支援教育コーディネーターを兼務ではなく、専任制へ

- ・きめ細やかな支援につながる
- ・先生間の情報共有が密になる

- ・子ども達が落ち着いた環境で安心して学ぶことができる



2. 支援員・人材の確保 その②

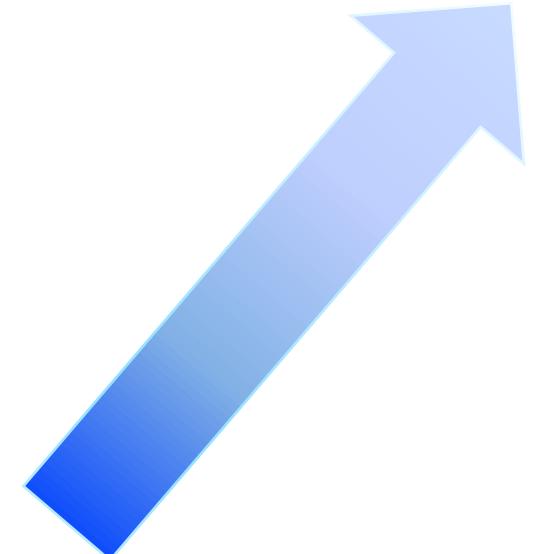


・校内教育支援員を府費で配置できない学校へ必要に応じて市費で配置

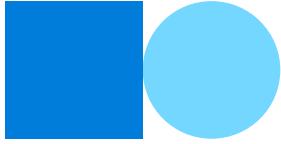
提言

・教員OBや有償ボランティアを積極的に活用する

・不登校や気持ちを落ち着かせたい子の一時的な居場所の確保ができる

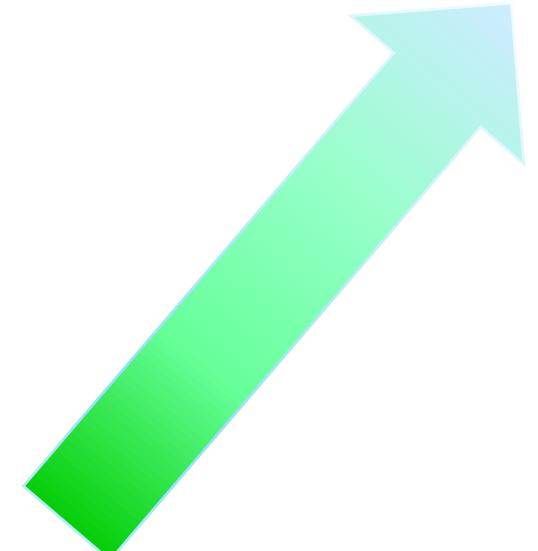


3.市内小中学校施設の整備 その①



- ・校内教育支援ルームが設置できる
- ・支援が必要な子の居場所が市内各校にできる
- ・整備することで市内の小中学校で季節を問わず教室が使用ができる
- ・エアコン未設置の特別教室や空き教室にもエアコンなどの整備を

提言



4.市内小中学校施設の整備 その②

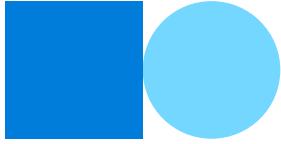
提言

・支援学級、通級指導教室、校内教育支援ルームにパーテーション、絨毯やユニバーサルデザイン教材など必要に応じて、設置できる体制整備

・予算に偏りが出ないように用途を決め、学校での必要な物品購入に充てる

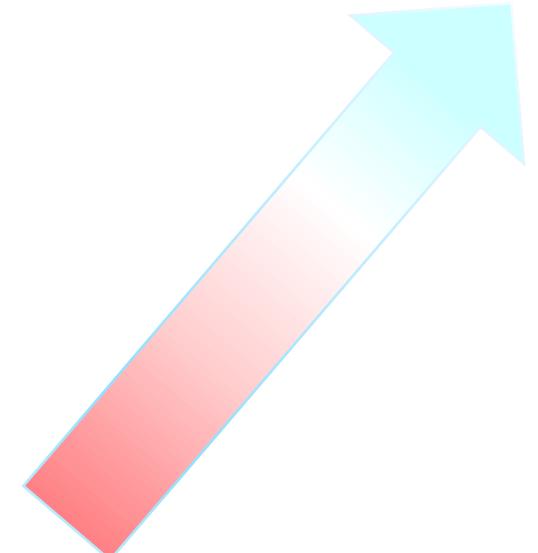
・支援ルームなど各学校が同じ水準で整備することで子どもたちの居場所が増え、多様な学びの機会につながる

5.制度・取組みの周知等 その①

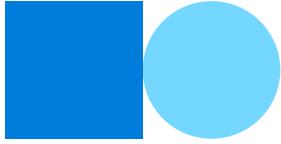


- ・不登校に悩む子や親が相談できる場所や制度・取組みを知ることができる
- ・不登校支援で現在、交野市で行っている「グレープ」、「校内支援」、「スクールカウンセラー」など
- ・不登校支援の制度・取組みの分かる資料・冊子の作成

提言



6.制度・取組みの周知等 その②

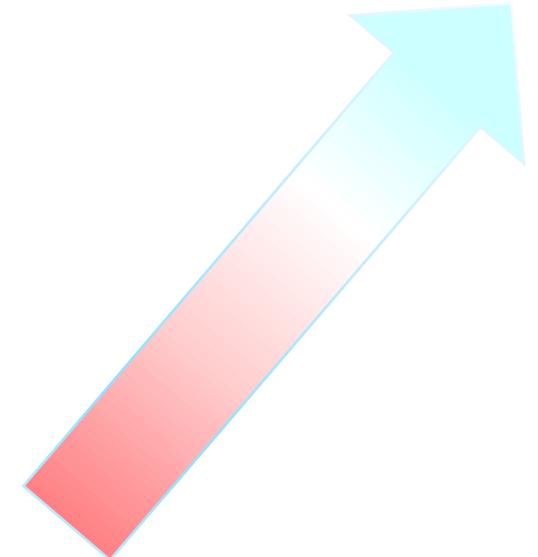


- ・支援が必要な時に必要な支援ができる体制により市内のどの学校でも実施できるようになる

- ・支援内容や体制が市内の学校で同じ水準に整っていることが必要

提言

- ・市内の学校が同じ目線、同じレベルで支援体制や校内教育支援ルームに取組むことができる体制整備を



取り残されるな

制度・体制・仕組み・ モノ・考え方

教育環境が変わる今

